

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年12月7日
【発行者名】	大和住銀投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 多田 正己
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
【事務連絡者氏名】	ディスクロージャー部 植松 克彦
【電話番号】	03-6205-0200
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券に係るファンドの名称】	短期NZドル債オープン（毎月分配型） 短期NZドル債オープン（資産成長型）
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券の金額】	各々につき、1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

**1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】**

平成27年6月9日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の記載事項のうち、有価証券報告書の提出等に伴う訂正事項がありますので、本訂正届出書を提出するものであります。

**2【訂正箇所および訂正事項】**



## 第二部【ファンド情報】

## 第1【ファンドの状況】

## 1 ファンドの性格

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

## (1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

## ファンドの特色



主として短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのNZドル建ての公社債および短期金融商品へ実質的に投資することにより、安定した利息収益の確保を目指します。

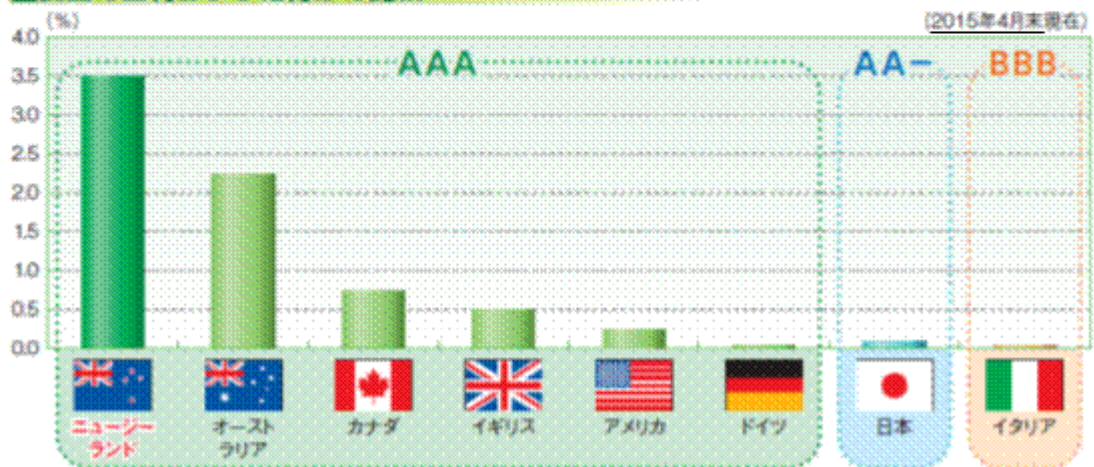


主として、高格付けのNZドル建て公社債等へ投資します。

投資する有価証券は、原則として取得時において、長期格付けでA格相当以上、短期格付けでA1/P1相当以上の格付けを取得しているものとします。

※ニュージーランド国外で発行されるNZドル建ての公社債に投資する場合があります。

## 主要国の金利および格付けの比較



(以下略)



原則として為替ヘッジは行いません。

当ファンドは実質的にNZドル建ての資産に投資しますので、為替変動により損失を被ることがあります。

## NZドル(対円)の推移



(以下略)

## (3) ファンドの仕組み

(以下略)

委託会社等の概況（平成27年4月末現在）

(以下略)

<訂正後>

(1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

ファンドの特色



主として短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのNZドル建ての公社債および短期金融商品へ実質的に投資することにより、安定した利息収益の確保を目指します。

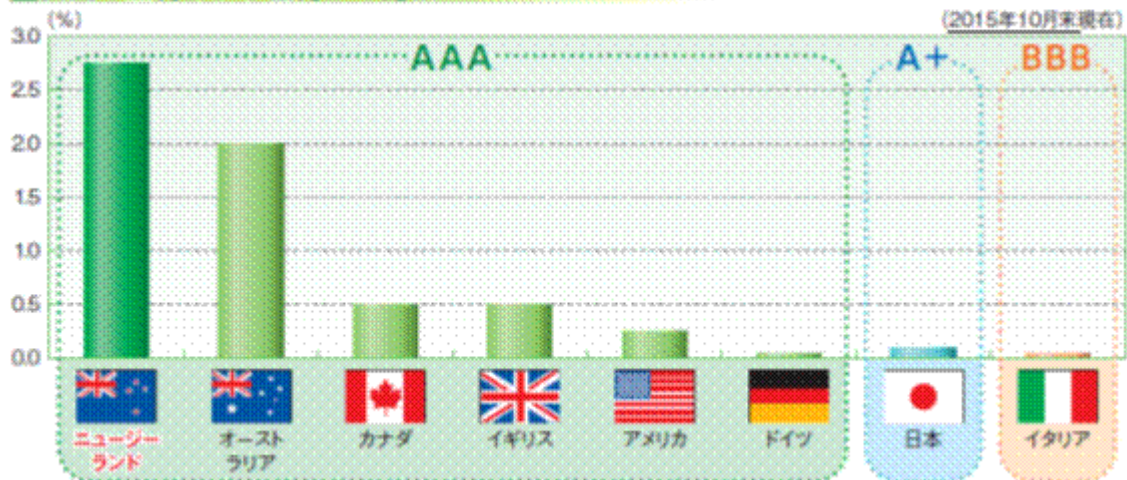


主として、高格付けのNZドル建て公社債等へ投資します。

投資する有価証券は、原則として取得時において、長期格付けでA格相当以上、短期格付けでA1/P1相当以上の格付けを取得しているものとします。

※ニュージーランド国外で発行されるNZドル建ての公社債に投資する場合があります。

主要国の金利および格付けの比較



(以下略)



原則として為替ヘッジは行いません。

当ファンドは実質的にNZドル建ての資産に投資しますので、為替変動により損失を被ることがあります。

NZドル(対円)の推移



(以下略)

(3) ファンドの仕組み

（以下略）

委託会社等の概況（平成27年10月末現在）

（以下略）

## 2 投資方針

下線部は訂正部分を示します。

<訂正前>

### (3)運用体制

（以下略）

\*当ファンドの運用体制に係る運用部門の人員数は、平成27年4月末現在で約100名です。

（以下略）

<訂正後>

### (3)運用体制

（以下略）

\*当ファンドの運用体制に係る運用部門の人員数は、平成27年10月末現在で約100名です。

（以下略）

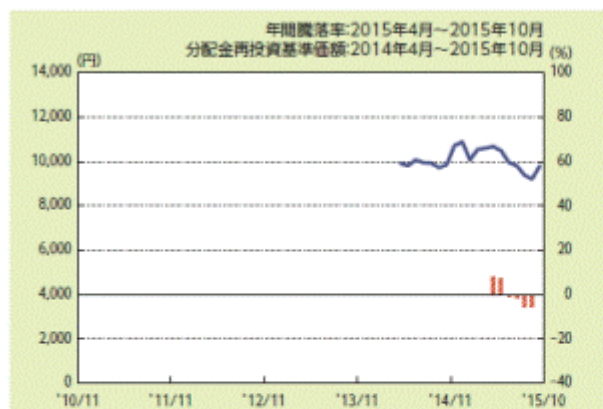
[次へ](#)

### 3 投資リスク

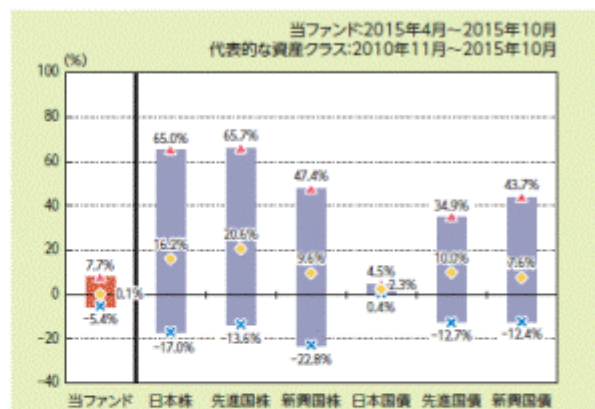
#### < 参考情報 >

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

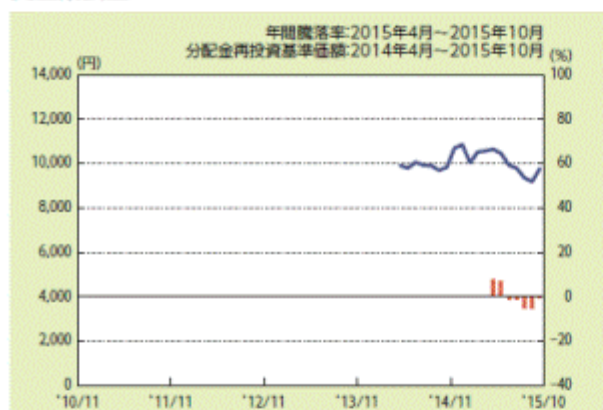
#### ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移 毎月分配型



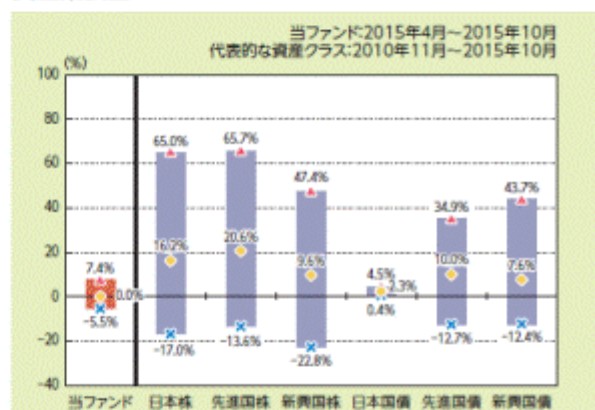
#### 当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 毎月分配型



#### 資産成長型



#### 資産成長型



■ 年間騰落率 (右目盛)    — 分配金再投資基準価額 (左目盛)

◆ 平均値    ▲ 最大値    × 最小値

※ 年間騰落率は、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率を表示しています。

※ 年間騰落率および分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したもとして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率および実際の基準価額とは異なる場合があります。

※ 上記グラフは、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものであり、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成しています。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※ ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したもとして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注) 上記グラフにおいて、当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

#### < 各資産クラスの指数について >

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX (配当込み)	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	Citigroup Index LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

[次へ](#)

#### 4 手数料等及び税金

下線部は訂正部分を示します。

< 訂正前 >

##### (5) 課税上の取扱い

(以下略)

個人の受益者に対する課税

(以下略)

< 損益通算について >

解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）との相殺が可能です。当該相殺後の譲渡損失については、確定申告により、申告分離課税を選択した場合の上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

また、源泉徴収選択口座内においても、解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）と相殺され、当該相殺後の譲渡損失については、上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

< 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」について >

公募株式投資信託は税法上、平成26年1月1日以降の少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

(以下略)

\* 上記の内容は平成27年4月末現在のもので、税法等が変更・改正された場合には、変更になることがあります。

(以下略)

< 訂正後 >

##### (5) 課税上の取扱い

(以下略)

個人の受益者に対する課税

(以下略)

< 損益通算について >

解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）との相殺が可能です。当該相殺後の譲渡損失については、確定申告により、申告分離課税を選択した場合の上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

また、源泉徴収選択口座内においても、解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）と相殺され、当該相殺後の譲渡損失については、上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

平成28年1月1日以降、上記の損益通算の対象範囲に、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等が追加される予定です。

< 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」について >

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円<sup>1</sup>の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、満20歳以上の方<sup>2</sup>で、販売会社で非課税



口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

1 平成28年1月1日以降、年間120万円となる予定です。

2 20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」が開始され、平成28年1月1日から口座開設が可能となり、平成28年4月1日から公募株式投資信託などの購入が可能となる予定です。

法人の受益者に対する課税

(以下略)

\* 上記の内容は平成27年10月末現在のものですので、税法等が変更・改正された場合には、変更になることがあります。

(以下略)

[前へ](#) [次へ](#)

## 5 運用状況

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

## 短期N Zドル債オープン（毎月分配型）

## (1) 投資状況

（平成27年10月末現在）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （短期N Zドル債マザーファンド）	日本	507,439,719	100.08%
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）		393,135	0.08%
純資産総額		507,046,584	100.00%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## (2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成27年10月末現在）

イ．主要銘柄の明細

銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1 短期N Zドル債マザーファンド 日本	親投資信託受益 証券 -	507,947,667	0.9639 489,629,057	0.9990 507,439,719	- -	100.08%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

## ロ．投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	100.08%
合計	100.08%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

## ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

（平成27年10月末現在）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成27年10月末現在）

該当事項はありません。

## (3) 運用実績

純資産の推移

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成26年4月4日）	25	-	1.0000	-
第1特定期間末 （平成26年9月8日）	489	492	0.9890	0.9980
平成26年10月末日	530	-	0.9733	-
平成26年11月末日	607	-	1.0554	-
平成26年12月末日	588	-	1.0685	-
平成27年1月末日	435	-	0.9861	-
平成27年2月末日	452	-	1.0298	-
第2特定期間末 （平成27年3月9日）	429	438	1.0140	1.0320
平成27年3月末日	462	-	1.0319	-
平成27年4月末日	419	-	1.0365	-
平成27年5月末日	494	-	1.0147	-
平成27年6月末日	478	-	0.9607	-
平成27年7月末日	477	-	0.9439	-
平成27年8月末日	465	-	0.9001	-
第3特定期間末 （平成27年9月7日）	451	460	0.8585	0.8765
平成27年9月末日	475	-	0.8791	-
平成27年10月末日	507	-	0.9336	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

期間	1口当りの分配金（円）
----	-------------

第1特定期間(平成26年4月4日～平成26年9月8日)	0.0090
第2特定期間(平成26年9月9日～平成27年3月9日)	0.0180
第3特定期間(平成27年3月10日～平成27年9月7日)	0.0180

## 収益率の推移

期間	収益率
第1特定期間(平成26年4月4日～平成26年9月8日)	0.2%
第2特定期間(平成26年9月9日～平成27年3月9日)	4.3%
第3特定期間(平成27年3月10日～平成27年9月7日)	13.6%

(注) 収益率 = (当特定期末分配付基準価額 - 前特定期末分配付基準価額) ÷ 前特定期末分配付基準価額 × 100

## (4) 設定及び解約の実績

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(平成26年4月4日～平成26年9月8日)	501,935,319	7,014,261
第2特定期間(平成26年9月9日～平成27年3月9日)	165,518,908	236,810,036
第3特定期間(平成27年3月10日～平成27年9月7日)	218,921,109	116,757,495

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

## 短期NZドル債オープン(資産成長型)

## (1) 投資状況

(平成27年10月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
親投資信託受益証券 (短期NZドル債マザーファンド)	日本	287,560,300	100.17%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		491,500	0.17%
純資産総額		287,068,800	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

## (2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成27年10月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	短期NZドル債マザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	287,848,149	0.9143 263,183,681	0.9990 287,560,300	- -	100.17%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

## ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	100.17%
合計	100.17%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

## ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

(平成27年10月末現在)

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(平成27年10月末現在)

該当事項はありません。

## (3) 運用実績

純資産の推移

	純資産総額(百万円)		1口当りの純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
設定時 (平成26年4月4日)	25	-	1.0000	-
第1計算期間末 (平成26年9月8日)	322	-	0.9959	-
平成26年10月末日	294	-	0.9830	-
平成26年11月末日	327	-	1.0688	-
平成26年12月末日	334	-	1.0850	-
平成27年1月末日	308	-	1.0039	-
平成27年2月末日	327	-	1.0517	-

第2計算期間末 (平成27年3月9日)	323	323	1.0378	1.0388
平成27年3月末日	328	-	1.0561	-
平成27年4月末日	318	-	1.0635	-
平成27年5月末日	305	-	1.0439	-
平成27年6月末日	292	-	0.9924	-
平成27年7月末日	288	-	0.9781	-
平成27年8月末日	275	-	0.9354	-
第3計算期間末 (平成27年9月7日)	263	-	0.8950	-
平成27年9月末日	269	-	0.9164	-
平成27年10月末日	287	-	0.9764	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

#### 分配の推移

期間	1口当りの分配金(円)
第1期(平成26年4月4日~平成26年9月8日)	0
第2期(平成26年9月9日~平成27年3月9日)	0.0010
第3期(平成27年3月10日~平成27年9月7日)	0

#### 収益率の推移

期間	収益率
第1期(平成26年4月4日~平成26年9月8日)	0.4%
第2期(平成26年9月9日~平成27年3月9日)	4.3%
第3期(平成27年3月10日~平成27年9月7日)	13.8%

(注) 収益率 = (当計算期末分配付基準価額 - 前計算期末分配付基準価額) ÷ 前計算期末分配付基準価額 × 100

#### (4) 設定及び解約の実績

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1期(平成26年4月4日~平成26年9月8日)	324,075,023	674,905
第2期(平成26年9月9日~平成27年3月9日)	25,504,349	37,374,819
第3期(平成27年3月10日~平成27年9月7日)	5,072,719	22,408,323

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

#### (参考) マザーファンドの運用状況

##### 短期NZドル債マザーファンド

##### (1) 投資状況

(平成27年10月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
国債証券	ニュージーランド	220,208,082	27.70%
地方債証券	ニュージーランド	122,413,390	15.40%
特殊債券	国際機関	361,037,210	45.41%
	ドイツ	33,718,891	4.24%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		57,650,442	7.25%
純資産総額		795,028,015	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

##### (2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成27年10月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	NEW ZEALAND GOVERNMENT ニュージーランド	国債証券 -	1,800,000	8,742.16 157,358,935	8,723.88 157,029,879	6.0000 2017/12/15	19.75%
2	EUROPEAN INVESTMENT BANK 国際機関	特殊債券 -	1,700,000	8,922.09 151,675,550	8,870.07 150,791,302	7.5000 2017/12/15	18.97%
3	INT BK RECON & DEVELOP 国際機関	特殊債券 -	1,300,000	8,265.03 107,445,395	8,243.13 107,160,739	4.5000 2016/08/16	13.48%
4	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC ニュージーランド	地方債証券 -	1,000,000	8,683.50 86,835,078	8,660.55 86,605,530	6.0000 2017/12/15	10.89%
5	COUNCIL OF EUROPE 国際機関	特殊債券 -	500,000	9,023.84 45,119,206	8,970.03 44,850,179	7.5000 2018/04/30	5.64%
6	INTL FINANCE CORP 国際機関	特殊債券 -	500,000	8,725.67 43,628,365	8,698.40 43,492,020	6.2500 2017/12/15	5.47%
7	NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	400,000	9,507.19	9,477.80	6.0000	4.77%

	ニュージーランド	-		38,028,777	37,911,236	2021/05/15	
8	LANDWIRTSCH. RENTENBANK ドイツ	特殊債券 -	300,000	8,369.71 25,109,132	8,369.05 25,107,178	4.0000 2020/01/30	3.16%
9	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC ニュージーランド	地方債証券 -	200,000	9,244.10 18,488,219	9,246.79 18,493,591	6.0000 2021/05/15	2.33%
10	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC ニュージーランド	地方債証券 -	200,000	8,663.15 17,326,315	8,657.13 17,314,268	5.0000 2019/03/15	2.18%
11	NEW ZEALAND GOVERNMENT ニュージーランド	国債証券 -	200,000	8,242.97 16,485,942	8,246.71 16,493,430	3.0000 2020/04/15	2.07%
12	ASIAN DEVELOPMENT BANK 国際機関	特殊債券 -	179,000	8,254.44 14,775,462	8,236.29 14,742,970	4.1250 2016/10/28	1.85%
13	NEW ZEALAND GOVERNMENT ニュージーランド	国債証券 -	100,000	8,789.49 8,789,490	8,773.53 8,773,536	5.0000 2019/03/15	1.10%
14	LANDWIRTSCH. RENTENBANK ドイツ	特殊債券 -	100,000	8,650.78 8,650,785	8,611.71 8,611,713	7.0000 2017/05/10	1.08%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

#### ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
特殊債券	49.65%
国債証券	27.70%
地方債証券	15.40%
合計	92.75%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

#### ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

#### 投資不動産物件

(平成27年10月末現在)

該当事項はありません。

#### その他投資資産の主要なもの

(平成27年10月末現在)

該当事項はありません。

#### (参考情報)



## 主要な資産の状況

### 毎月分配型

投資銘柄	投資比率
短期NZドル債マザーファンド	100.1%

### ■参考情報

#### 短期NZドル債マザーファンド

#### 上位10銘柄

	投資銘柄	種別	投資比率
1	NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 12/15/17	国債証券	19.8%
2	EUROPEAN INVESTMENT BANK 7.5 12/15/17	特殊債券	19.0%
3	INT BK RECON & DEVELOP 4.5 08/16/16	特殊債券	13.5%
4	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6 12/15/17	地方債証券	10.9%
5	COUNCIL OF EUROPE 7.5 04/30/18	特殊債券	5.6%
6	INTL FINANCE CORP 6.25 12/15/17	特殊債券	5.5%
7	NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 05/15/21	国債証券	4.8%
8	LANDWIRTSCHL RENTENBANK 4 01/30/20	特殊債券	3.2%
9	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6 05/15/21	地方債証券	2.3%
10	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 5 03/15/19	地方債証券	2.2%

\*投資比率は全て純資産総額対比

### 資産成長型

投資銘柄	投資比率
短期NZドル債マザーファンド	100.2%

### 債券種別構成

種別	投資比率
特殊債券	49.7%
国債証券	27.7%
地方債証券	15.4%

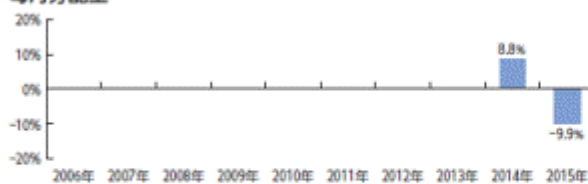
### 格付別構成

格付け	投資比率
AAA	71.7%
AA	21.0%

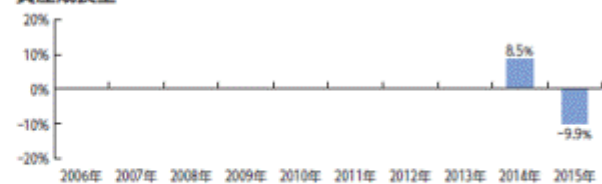
\*原則、格付けはS&P, Moody'sのうち、高い方の格付けを採用しております。

## 年間収益率の推移

### 毎月分配型



### 資産成長型



\*ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2014年は当初設定日(2014年4月4日)から年末までの収益率、2015年は10月末までの収益率です。

\*ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。

\*ファンドには、ベンチマークはありません。

- ・ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

[前へ](#)

### 第3【ファンドの経理状況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

#### 短期NZドル債オープン（毎月分配型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成27年3月10日から平成27年9月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

#### 短期NZドル債オープン（資産成長型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3期計算期間（平成27年3月10日から平成27年9月7日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

[次へ](#)

## 1 財務諸表

## 短期N Z ドル債オープン（毎月分配型）

## (1) 貸借対照表

区分	前期 平成27年3月9日現在 金額（円）	当期 平成27年9月7日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	443,151,833	453,734,693
未収入金	50,391	-
流動資産合計	443,202,224	453,734,693
資産合計	443,202,224	453,734,693
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	1,270,889	1,577,380
未払解約金	11,929,077	257,607
未払受託者報酬	11,177	12,948
未払委託者報酬	410,095	474,913
その他未払費用	27,815	24,699
流動負債合計	13,649,053	2,347,547
負債合計	13,649,053	2,347,547
純資産の部		
元本等		
元本	423,629,930	525,793,544
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,923,241	74,406,398
（分配準備積立金）	27,444,174	22,252,438
元本等合計	429,553,171	451,387,146
純資産合計	429,553,171	451,387,146
負債純資産合計	443,202,224	453,734,693

## (2) 損益及び剰余金計算書

区分	前期 自 平成26年9月9日 至 平成27年3月9日 金額（円）	当期 自 平成27年3月10日 至 平成27年9月7日 金額（円）
営業収益		
受取利息	5	-
有価証券売買等損益	32,042,694	67,025,617
営業収益合計	32,042,699	67,025,617
営業費用		
受託者報酬	83,685	74,337
委託者報酬	3,069,972	2,726,856
その他費用	27,815	24,699
営業費用合計	3,181,472	2,825,892



営業利益又は営業損失( )	28,861,227	69,851,509
経常利益又は経常損失( )	28,861,227	69,851,509
当期純利益又は当期純損失( )	28,861,227	69,851,509
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	3,444,250	497,664
期首剰余金又は期首欠損金( )	5,451,982	5,923,241
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,368,935	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,368,935	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	6,261,681	1,356,139
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	6,261,681	1,060,225
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	295,914
分配金	9,149,008	8,624,327
期末剰余金又は期末欠損金( )	5,923,241	74,406,398

[次へ](#)

## (3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 平成27年 3月10日	至 平成27年 9月 7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの特定期間は、前計算期末が休日のため、平成27年 3月10日から平成27年 9月 7日までとなっております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	平成27年 3月 9日現在	平成27年 9月 7日現在
1. 元本状況		
期首元本額	494,921,058円	423,629,930円
期中追加設定元本額	165,518,908円	218,921,109円
期中一部解約元本額	236,810,036円	116,757,495円
2. 受益権の総数	423,629,930口	525,793,544口
3. 元本の欠損	-	74,406,398円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期		当期	
自 平成26年 9月 9日 至 平成27年 3月 9日		自 平成27年 3月10日 至 平成27年 9月 7日	
<p>分配金の計算過程</p> <p>第6期計算期間末（平成26年10月7日）に、投資信託約款に基づき計算した11,056,806円（1万口当たり210.03円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,579,352円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>		<p>分配金の計算過程</p> <p>第12期計算期間末（平成27年4月7日）に、投資信託約款に基づき計算した39,072,272円（1万口当たり883.91円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,326,117円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>	
配当等収益 （費用控除後）	1,927,378円	配当等収益 （費用控除後）	1,756,081円
有価証券売買等損益	0円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	7,601,024円	収益調整金	10,447,316円
分配準備積立金	1,528,404円	分配準備積立金	26,868,875円
分配可能額	11,056,806円	分配可能額	39,072,272円
（1万口当たり分配可能額）	(210.03円)	（1万口当たり分配可能額）	(883.91円)
収益分配金	1,579,352円	収益分配金	1,326,117円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)	（1万口当たり収益分配金）	(30円)
<p>第7期計算期間末（平成26年11月7日）に、投資信託約款に基づき計算した17,552,072円（1万口当たり322.19円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,634,339円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>		<p>第13期計算期間末（平成27年5月7日）に、投資信託約款に基づき計算した37,082,120円（1万口当たり890.82円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,248,810円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>	
配当等収益 （費用控除後）	2,677,408円	配当等収益 （費用控除後）	1,458,027円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	4,983,251円	有価証券売買等損益	0円
収益調整金	8,032,846円	収益調整金	11,702,621円
分配準備積立金	1,858,567円	分配準備積立金	23,921,472円
分配可能額	17,552,072円	分配可能額	37,082,120円
（1万口当たり分配可能額）	(322.19円)	（1万口当たり分配可能額）	(890.82円)
収益分配金	1,634,339円	収益分配金	1,248,810円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)	（1万口当たり収益分配金）	(30円)
<p>第8期計算期間末（平成26年12月8日）に、投資信託約款に基づき計算した46,384,053円（1万口当たり828.81円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,678,949円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>		<p>第14期計算期間末（平成27年6月8日）に、投資信託約款に基づき計算した43,601,737円（1万口当たり899.22円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,454,648円（1万口当たり30円）を分配しております。</p>	

配当等収益 （費用控除後）	2,972,132円
有価証券売買等損益 （費用控除後）	26,840,000円
収益調整金	9,365,461円
分配準備積立金	7,206,460円
分配可能額	46,384,053円
（1万口当たり分配可能額）	(828.81円)
収益分配金	1,678,949円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第9期計算期間末（平成27年1月7日）に、投資信託約款に基づき計算した46,371,249円（1万口当たり841.69円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,652,787円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	2,332,714円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	9,780,215円
分配準備積立金	34,258,320円
分配可能額	46,371,249円
（1万口当たり分配可能額）	(841.69円)
収益分配金	1,652,787円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第10期計算期間末（平成27年2月9日）に、投資信託約款に基づき計算した38,227,372円（1万口当たり860.53円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,332,692円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	2,137,914円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	8,452,991円
分配準備積立金	27,636,467円
分配可能額	38,227,372円
（1万口当たり分配可能額）	(860.53円)
収益分配金	1,332,692円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第11期計算期間末（平成27年3月9日）に、投資信託約款に基づき計算した36,949,482円（1万口当たり872.21円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,270,889円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,758,453円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	8,234,419円
分配準備積立金	26,956,610円
分配可能額	36,949,482円
（1万口当たり分配可能額）	(872.21円)
収益分配金	1,270,889円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

配当等収益 （費用控除後）	1,633,619円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	18,496,763円
分配準備積立金	23,471,355円
分配可能額	43,601,737円
（1万口当たり分配可能額）	(899.22円)
収益分配金	1,454,648円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第15期計算期間末（平成27年7月7日）に、投資信託約款に基づき計算した45,363,564円（1万口当たり903.39円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,506,451円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,607,359円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	21,077,029円
分配準備積立金	22,679,176円
分配可能額	45,363,564円
（1万口当たり分配可能額）	(903.39円)
収益分配金	1,506,451円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第16期計算期間末（平成27年8月7日）に、投資信託約款に基づき計算した45,715,279円（1万口当たり907.70円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,510,921円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,676,015円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	21,963,913円
分配準備積立金	22,075,351円
分配可能額	45,715,279円
（1万口当たり分配可能額）	(907.70円)
収益分配金	1,510,921円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

第17期計算期間末（平成27年9月7日）に、投資信託約款に基づき計算した47,899,707円（1万口当たり911.00円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,577,380円（1万口当たり30円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,691,012円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	24,069,889円
分配準備積立金	22,138,806円
分配可能額	47,899,707円
（1万口当たり分配可能額）	(911.00円)
収益分配金	1,577,380円
（1万口当たり収益分配金）	(30円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 平成27年3月10日 至 平成27年9月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。

3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、プロダクト管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	当期 平成27年9月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

前期（平成27年3月9日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	8,112,680
合計	8,112,680

当期（平成27年9月7日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	39,562,225
合計	39,562,225

## （デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（平成27年3月9日現在）

該当事項はありません。

当期（平成27年9月7日現在）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

当期（自 平成27年3月10日 至 平成27年9月7日）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

前期 平成27年3月9日現在	当期 平成27年9月7日現在
1口当たり純資産額 1.0140円 「1口 = 1円（10,000口 = 10,140円）」	1口当たり純資産額 0.8585円 「1口 = 1円（10,000口 = 8,585円）」

## （4）附属明細表

## 有価証券明細表

&lt;株式以外の有価証券&gt;

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	親投資信託 受益証券	短期NZドル債マザーファンド	496,373,147	453,734,693	
	合計	1銘柄	496,373,147	453,734,693	

[前へ](#) [次へ](#)

## &lt;参考&gt;

当ファンドは、「短期NZドル債マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

## 短期NZドル債マザーファンド

## (1)貸借対照表

区分	第2期 平成27年3月9日現在 金額(円)	第3期 平成27年9月7日現在 金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	26,867,948	31,953,628
国債証券	115,888,143	201,651,749
地方債証券	112,590,518	112,705,050
特殊債券	480,934,625	364,263,040
派生商品評価勘定	413,984	959,933
未収入金	24,359,194	-
未収利息	8,031,118	7,417,307
前払費用	619,408	1,422,306
流動資産合計	769,704,938	720,373,013
資産合計	769,704,938	720,373,013
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	969,563	1,457,096
未払解約金	51,878	-
流動負債合計	1,021,441	1,457,096
負債合計	1,021,441	1,457,096
純資産の部		
元本等		
元本	730,375,212	786,432,377
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	38,308,285	67,516,460
元本等合計	768,683,497	718,915,917
純資産合計	768,683,497	718,915,917
負債純資産合計	769,704,938	720,373,013

[前へ](#)   [次へ](#)

## (2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第3期	
	自 平成27年3月10日	至 平成27年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券及び特殊債券 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）又は価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。	
3. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益及び為替予約取引による為替差損益 約定日基準で計上しております。	
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。</p> <p>(2) 当ファンドの計算期間は、前計算期末が休日のため、平成27年3月10日から平成27年9月7日までとなっております。</p>	

## (貸借対照表に関する注記)

項目	第2期		第3期	
	平成27年3月9日現在		平成27年9月7日現在	
1. 元本状況				
期首元本額		814,122,163円		730,375,212円
期中追加設定元本額		187,498,603円		214,279,535円
期中一部解約元本額		271,245,554円		158,222,370円
元本の内訳				
短期N Z ドル債オープン（毎月分配型）		421,046,873円		496,373,147円
短期N Z ドル債オープン（資産成長型）		309,328,339円		290,059,230円
合計		730,375,212円		786,432,377円
2. 受益権の総数		730,375,212口		786,432,377口
3. 元本の欠損		-		67,516,460円

## (金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第3期	
	自 平成27年3月10日	至 平成27年9月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。	
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。	
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、プロダクト管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。	
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第3期
	平成27年9月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。 (3)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第2期（平成27年3月9日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	1,146,221
地方債証券	1,099,334
特殊債証券	1,210,160
合計	3,455,715

第3期（平成27年9月7日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	168,175
地方債証券	960,248
特殊債証券	1,223,489
合計	2,351,912

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(通貨関連)

区分	種類	第2期 平成27年3月9日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建 ニュージーランド・ドル	107,504,856	-	106,568,888	935,968
	売建 ニュージーランド・ドル	96,770,586	-	96,390,197	380,389
合計		-	-	202,959,085	555,579

区分	種類	第3期 平成27年9月7日現在			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建 ニュージーランド・ドル	94,644,729	-	93,187,633	1,457,096
	売建 ニュージーランド・ドル	66,988,784	-	66,028,851	959,933
合計		-	-	159,216,484	497,163

(注)時価の算定方法

- A. 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨につきましては、以下のように評価しております。  
計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合には、当該為替予約は当該仲値で評価しております。  
計算期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合には、以下の方法によっております。

- ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートをを用いております。
  - ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。
- B. 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨につきましては、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

第3期(自平成27年3月10日 至 平成27年9月7日)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

第2期 平成27年3月9日現在	第3期 平成27年9月7日現在
1口当たり純資産額 1.0525円 「1口 = 1円(10,000口 = 10,525円)」	1口当たり純資産額 0.9141円 「1口 = 1円(10,000口 = 9,141円)」

(3) 附属明細表

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
ニュージーランド・ドル	国債証券	NZGB 3 04/15/20	200,000.000	202,530.000	
	国債証券	NZGB 5 03/15/19	100,000.000	107,979.000	
	国債証券	NZGB 6 05/15/21	200,000.000	233,630.000	
	国債証券	NZGB 6 12/15/17	2,000,000.000	2,151,740.000	
	地方債証券	NZLGFA 5 03/15/19	200,000.000	212,854.000	
	地方債証券	NZLGFA 6 05/15/21	200,000.000	227,128.000	
	地方債証券	NZLGFA 6 12/15/17	1,000,000.000	1,066,770.000	
	特殊債券	ASIA 4.125 10/28/16	179,000.000	181,516.740	
	特殊債券	COE 7.5 04/30/18	500,000.000	554,290.000	
	特殊債券	EIB 7.5 12/15/17	1,700,000.000	1,863,336.000	
	特殊債券	IBRD 4.5 08/16/16	1,300,000.000	1,319,968.000	
	特殊債券	IFC 6.25 12/15/17	500,000.000	535,975.000	
	特殊債券	RENTEN 4 01/30/20	300,000.000	308,466.000	
	特殊債券	RENTEN 7 05/10/17	100,000.000	106,275.000	
	小計(ニュージーランド・ドル) 14銘柄	8,479,000.000	9,072,457.740 (678,619,839)		
合計				678,619,839 (678,619,839)	

(注) 1. 各種通貨ごとの小計の欄における( )内の金額は、邦貨換算額であります。

2. 合計欄は邦貨金額を表示しております。( )内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入有価証券 時価比率	有価証券の合計 金額に対する比率
ニュージーランド・ドル	国債証券 4銘柄	94.39%	100.00%
	地方債証券 3銘柄		
	特殊債券 7銘柄		

組入有価証券時価比率とは、純資産額に対する比率であります。

為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

注記表中の(デリバティブ取引等関係に関する注記)に記載しており、ここでは省略しております。

[前へ](#) [次へ](#)



## 短期N Z ドル債オープン（資産成長型）

## (1) 貸借対照表

区分	第2期 平成27年3月9日現在 金額（円）	第3期 平成27年9月7日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	325,568,076	265,143,142
未収入金	1,487	-
流動資産合計	325,569,563	265,143,142
資産合計	325,569,563	265,143,142
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	311,529	-
未払解約金	2,799	-
未払受託者報酬	51,177	48,749
未払委託者報酬	1,878,013	1,789,019
その他未払費用	16,985	16,168
流動負債合計	2,260,503	1,853,936
負債合計	2,260,503	1,853,936
純資産の部		
元本等		
元本	311,529,648	294,194,044
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	11,779,412	30,904,838
（分配準備積立金）	11,538,565	16,750,025
元本等合計	323,309,060	263,289,206
純資産合計	323,309,060	263,289,206
負債純資産合計	325,569,563	265,143,142

## (2) 損益及び剰余金計算書

区分	第2期 自 平成26年9月9日 至 平成27年3月9日 金額（円）	第3期 自 平成27年3月10日 至 平成27年9月7日 金額（円）
営業収益		
有価証券売買等損益	15,163,894	39,622,777
営業収益合計	15,163,894	39,622,777
営業費用		
受託者報酬	51,177	48,749
委託者報酬	1,878,013	1,789,019
その他費用	16,985	16,168
営業費用合計	1,946,175	1,853,936
営業利益又は営業損失（ ）	13,217,719	41,476,713

経常利益又は経常損失( )	13,217,719	41,476,713
当期純利益又は当期純損失( )	13,217,719	41,476,713
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	455,053	450,785
期首剰余金又は期首欠損金( )	1,321,075	11,779,412
剰余金増加額又は欠損金減少額	649,350	90,784
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	145,465	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	503,885	90,784
剰余金減少額又は欠損金増加額	-	847,536
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	847,536
分配金	311,529	-
期末剰余金又は期末欠損金( )	11,779,412	30,904,838

[前へ](#)   [次へ](#)

## (3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第3期	
	自 平成27年3月10日	至 平成27年9月7日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの計算期間は、前計算期末が休日のため、平成27年3月10日から平成27年9月7日までとなっております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第2期		第3期	
	平成27年3月9日現在		平成27年9月7日現在	
1. 元本状況				
期首元本額		323,400,118円		311,529,648円
期中追加設定元本額		25,504,349円		5,072,719円
期中一部解約元本額		37,374,819円		22,408,323円
2. 受益権の総数		311,529,648口		294,194,044口
3. 元本の欠損		-		30,904,838円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第2期		第3期	
自 平成26年9月9日 至 平成27年3月9日		自 平成27年3月10日 至 平成27年9月7日	
分配金の計算過程 第2期計算期間末（平成27年3月9日）に、投資信託約款に基づき計算した12,669,560円（1万口当たり406.69円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い311,529円（1万口当たり10円）を分配しております。		分配金の計算過程 該当事項はありません。	
配当等収益 （費用控除後）	8,342,725円		
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	1,574,334円		
収益調整金	819,466円		
分配準備積立金	1,933,035円		
分配可能額	12,669,560円		
（1万口当たり分配可能額）	(406.69円)		
収益分配金	311,529円		
（1万口当たり収益分配金）	(10円)		

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第3期	
	自 平成27年3月10日	至 平成27年9月7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。	
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。	

3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、プロダクト管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用部門に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第3期 平成27年9月7日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

## 第2期（平成27年3月9日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	14,722,046
合計	14,722,046

## 第3期（平成27年9月7日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	40,051,932
合計	40,051,932

## （デリバティブ取引等関係に関する注記）

## ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

## 第2期（平成27年3月9日現在）

該当事項はありません。

## 第3期（平成27年9月7日現在）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

## 第3期（自平成27年3月10日 至平成27年9月7日）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

第2期 平成27年3月9日現在	第3期 平成27年9月7日現在
1口当たり純資産額 1.0378円 「1口 = 1円（10,000口 = 10,378円）」	1口当たり純資産額 0.8950円 「1口 = 1円（10,000口 = 8,950円）」

## （4）附属明細表

## 有価証券明細表

## &lt;株式以外の有価証券&gt;

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	親投資信託 受益証券	短期N Z ドル債マザーファンド	290,059,230	265,143,142	
	合計	1銘柄	290,059,230	265,143,142	

## &lt;参考&gt;

当ファンドは、「短期N Z ドル債マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

同マザーファンドの状況は、前記「短期N Z ドル債オープン（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

[前へ](#) [次へ](#)

## 2 ファンドの現況

## 純資産額計算書

(平成27年10月末現在)

## 短期N Zドル債オープン（毎月分配型）

資産総額	507,477,406	円
負債総額	430,822	円
純資産総額（ - ）	507,046,584	円
発行済数量	543,106,469	口
1単位当り純資産額（ / ）	0.9336	円

## 短期N Zドル債オープン（資産成長型）

資産総額	287,560,300	円
負債総額	491,500	円
純資産総額（ - ）	287,068,800	円
発行済数量	294,004,576	口
1単位当り純資産額（ / ）	0.9764	円

## （参考）短期N Zドル債マザーファンド

資産総額	865,303,878	円
負債総額	70,275,863	円
純資産総額（ - ）	795,028,015	円
発行済数量	795,795,816	口
1単位当り純資産額（ / ）	0.9990	円

[前へ](#)

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

#### 1 委託会社等の概況

##### (1) 資本金の額

資本金の額：20億円（平成27年10月末現在）

会社が発行する株式総数：12,800,000株

発行済株式総数：3,850,000株

最近5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

##### (2) 会社の機構

会社は、8名以内で構成される取締役により運営されます。取締役は、株主総会の決議によって選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上を有する株主が出席し、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上をもってこれを行います。

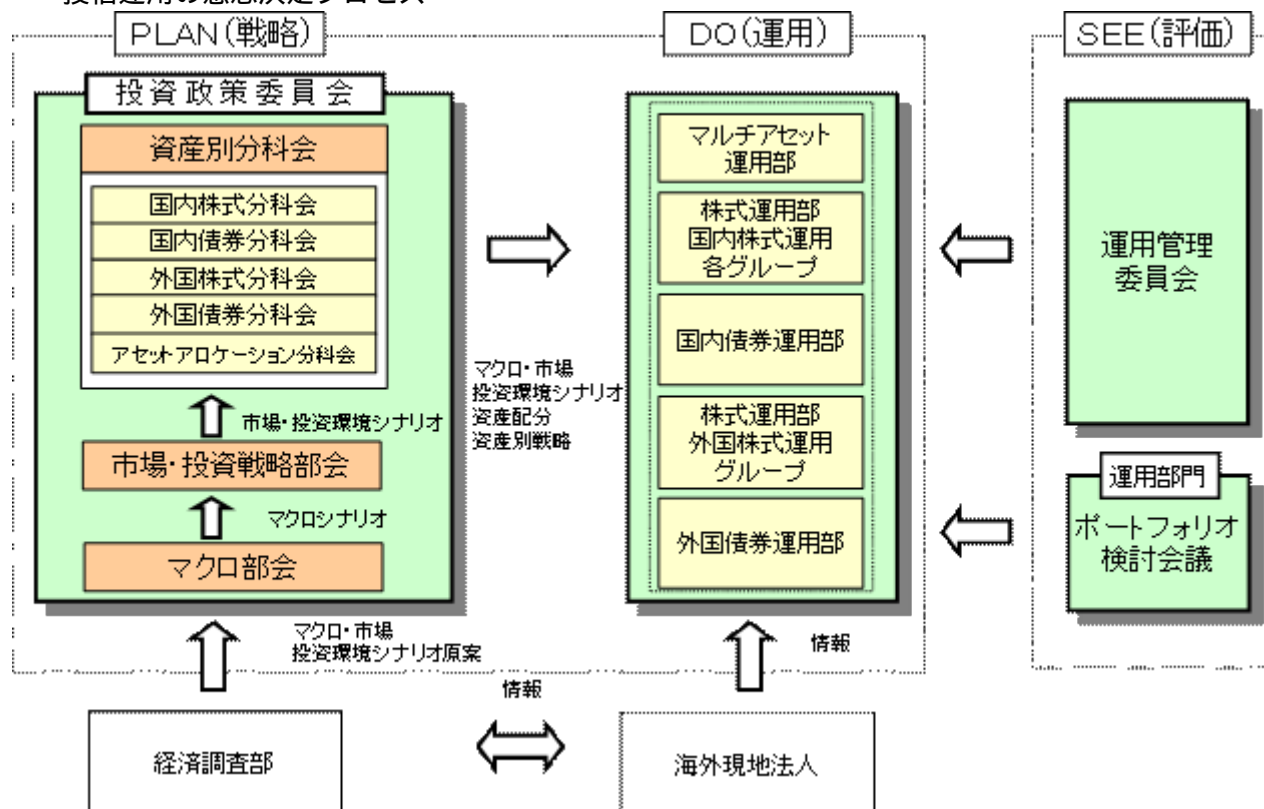
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠として選任された取締役の任期は、前任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役会の決議によって取締役の中から取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また代表取締役は2名とし、取締役社長および取締役副社長がこれに就任します。ただし、取締役副社長を置かない場合、専務取締役から代表取締役1名を選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、招集通知は3日前までにこれを発します。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の6名以上が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

#### < 投信運用の意思決定プロセス >



#### 2 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、株式会社住友銀行（現株式会社三井住友フィナンシャルグループ）および大和証券株式会社（現株式会社大和証券グループ本社）の戦略的提携により平成11年4月1日付で、大和投資顧問株式会

社と住銀投資顧問株式会社およびエス・ビー・アイ・エム投信株式会社の三社が合併して設立された会社です。

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成27年10月末現在、委託会社が運用の指図を行っている投資信託の総ファンド数は、309本であり、その純資産総額は、約3,550,699百万円です（なお、親投資信託112本は、ファンド数及び純資産総額からは除いております。）。

種類	ファンド数	純資産総額
単位型株式投資信託	27	189,314百万円
追加型株式投資信託	260	3,216,499百万円
単位型公社債投資信託	22	144,885百万円
合計	309	3,550,699百万円

[次へ](#)

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1 名称、資本金の額及び事業の内容

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

## (1) 受託会社

名称	資本金の額（百万円） 平成27年3月末現在	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）の概要>

- ・資本金：51,000百万円（平成27年3月末現在）
- ・事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

## (2) 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 平成27年3月末現在	事業の内容
株式会社荘内銀行	7,000	銀行法に基づき、監督官庁の免許を受け銀行業を営んでいます。
株式会社千葉興業銀行	57,941	
株式会社滋賀銀行	33,076	
株式会社あおぞら銀行	100,000	
京都信用金庫 <sup>(注)</sup>	12,752	信用金庫法に基づき、金融業を営んでいます。
カブドットコム証券株式会社	7,196	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	47,937	
高木証券株式会社	11,069	
立花証券株式会社	6,695	
大和証券株式会社	100,000	
楽天証券株式会社	7,495	

(注)京都信用金庫の資本金の額の箇所には、出資の総額を記載しております。

以上



### 3 委託会社等の経理状況

- 1 . 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号。）により作成しております。
- 2 . 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 3 . 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第43期事業年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

[次へ](#)

## ( 1 ) 貸借対照表

( 単位：千円 )

		第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金・預金		17,588,077	19,107,074
前払費用		149,868	198,366
未収委託者報酬		2,410,896	3,278,499
未収運用受託報酬		895,204	1,001,357
未収収益		15,769	15,862
繰延税金資産		490,240	559,646
その他		13,019	7,378
流動資産計		21,563,076	24,168,184
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建物	1	162,431	135,473
器具備品	1	68,912	48,230
土地		710	710
リース資産	1	9,490	6,166
有形固定資産計		241,544	190,580
<b>無形固定資産</b>			
ソフトウェア		173,597	105,376
ソフトウェア仮勘定		3,150	-
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		189,454	118,082
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券		5,381,370	5,298,347
関係会社株式		1,169,774	1,169,774
従業員長期貸付金		2,299	3,738
長期差入保証金		511,366	510,636
出資金		132,660	82,660
繰延税金資産		611,818	561,097
その他		2,209	2,190
貸倒引当金		70,650	20,750
投資その他の資産計		7,740,848	7,607,693
固定資産計		8,171,846	7,916,356
資産合計		29,734,923	32,084,541

(単位：千円)

	第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	3,558	3,042
未払金	39,085	53,907
未払手数料	1,109,332	1,519,563
未払費用	1,020,908	1,178,272
未払法人税等	1,316,049	1,515,891
未払消費税等	118,950	620,431
賞与引当金	955,000	1,220,900
役員賞与引当金	80,000	87,600
その他	21,473	29,244
流動負債計	4,664,357	6,228,853
固定負債		
リース債務	6,569	3,527
退職給付引当金	1,391,001	1,459,244
役員退職慰労引当金	116,430	148,160
固定負債計	1,514,000	1,610,931
負債合計	6,178,358	7,839,785

(単位：千円)

	第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		

別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	19,953,563	20,569,363
利益剰余金合計	21,397,294	22,013,094
株主資本合計	23,553,563	24,169,363
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,001	75,392
評価・換算差額等合計	3,001	75,392
純資産合計	23,556,565	24,244,756
負債純資産合計	29,734,923	32,084,541

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	第42期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	第43期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	3,557,574	3,613,731
委託者報酬	27,766,163	30,077,141
その他営業収益	69,161	54,133
営業収益計	31,392,899	33,745,007
営業費用		
支払手数料	13,355,205	14,599,540
広告宣伝費	204,927	172,450
公告費	269	-
調査費		
調査費	1,191,119	1,225,517
委託調査費	3,772,225	3,858,570
委託計算費	145,854	166,866
営業雑経費		
通信費	35,588	35,132
印刷費	495,807	465,810
協会費	26,478	23,810
諸会費	2,206	2,207
その他	34,597	48,630
営業費用計	19,264,279	20,598,538
一般管理費		
給料		
役員報酬	201,630	201,630
給料・手当	2,983,202	2,893,443

賞与	92,691	99,464
退職金	5,583	4,787
福利厚生費	614,668	644,228
交際費	19,862	17,830
旅費交通費	167,353	149,324
租税公課	74,265	91,224
不動産賃借料	618,978	627,983
退職給付費用	222,235	225,474
固定資産減価償却費	77,093	58,879
賞与引当金繰入額	939,093	1,174,402
役員退職慰労引当金繰入額	38,530	38,530
役員賞与引当金繰入額	87,400	86,300
諸経費	290,905	250,480
一般管理費計	6,433,492	6,563,983
営業利益	5,695,126	6,582,484
営業外収益		
受取配当金	34,957	18,215
受取利息	3,291	3,072
投資有価証券売却益	68,331	71,459
為替差益	1,706	397
その他	11,918	12,418
営業外収益計	120,205	105,563
営業外費用		
投資有価証券売却損	23,470	764
営業外費用計	23,470	764
経常利益	5,791,861	6,687,284
特別利益		
ゴルフ会員権売却益	-	400
特別利益計	-	400
特別損失		
固定資産除却損	1,884	95
割増退職金	-	7,785
特別損失計	1,884	7,881
税引前当期純利益	5,789,977	6,679,803
法人税、住民税及び事業税	2,321,531	2,602,339
法人税等調整額	49,846	53,385
法人税等合計	2,271,684	2,548,953
当期純利益	3,518,293	4,130,849

## (3) 株主資本等変動計算書

第42期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期末首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	19,981,120
当期変動額						
剰余金の配当						3,545,850
当期純利益						3,518,293
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計						27,556
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	19,953,563

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期末首残高	21,424,851	23,581,120	59,183	59,183	23,640,304
当期変動額					
剰余金の配当	3,545,850	3,545,850			3,545,850
当期純利益	3,518,293	3,518,293			3,518,293
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			56,182	56,182	56,182
当期変動額合計	27,556	27,556	56,182	56,182	83,739
当期末残高	21,397,294	23,553,563	3,001	3,001	23,556,565

第43期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期末首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	19,953,563
当期変動額						
剰余金の配当						3,515,050
当期純利益						4,130,849
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計						615,799
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	20,569,363

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期末首残高	21,397,294	23,553,563	3,001	3,001	23,556,565
当期変動額					
剰余金の配当	3,515,050	3,515,050			3,515,050
当期純利益	4,130,849	4,130,849			4,130,849
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			72,391	72,391	72,391
当期変動額合計	615,799	615,799	72,391	72,391	688,190
当期末残高	22,013,094	24,169,363	75,392	75,392	24,244,756

[前へ](#)   [次へ](#)

## 注記事項

## 重要な会計方針

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は総平均法により算出し、評価差額は全部純資産直入法により処理しております。）を採用しております。 時価のないもの 総平均法による原価法を採用しております。</p>
<p>2. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15～30年 器具備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p>
<p>3. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。 これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。</p>
<p>4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>

## 表示方法の変更



## （貸借対照表関係）

前事業年度において、「流動負債」の「未払金」に含めていた「未払消費税等」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「未払金」に表示していた158,035千円は、「未払金」39,085千円、「未払消費税等」118,950千円として組み替えております。

## （貸借対照表関係）

第42期 (平成26年3月31日)		第43期 (平成27年3月31日)	
1.有形固定資産の減価償却累計額		1.有形固定資産の減価償却累計額	
建物	389,326千円	建物	416,284千円
器具備品	282,257千円	器具備品	241,990千円
リース資産	10,890千円	リース資産	10,452千円
2.保証債務		2.保証債務	
被保証者	従業員	被保証者	従業員
被保証債務の内容	住宅ローン	被保証債務の内容	住宅ローン
金額	11,273千円	金額	7,139千円

## （株主資本等変動計算書関係）

第42期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1.発行済株式に関する事項

（単位：千株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

## 2.配当に関する事項

## (1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月24日 定時株主総会	普通株式	3,545,850	921	平成25年3月31日	平成25年6月25日

## (2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通 株式	3,515,050	利益 剰余金	913	平成26年3月31日	平成26年6月25日

第43期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1.発行済株式に関する事項

（単位：千株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

## 2.配当に関する事項

## (1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	3,515,050	913	平成26年3月31日	平成26年6月25日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月24日 定時株主総会	普通 株式	2,063,600	利益 剰余金	536	平成27年3月31日	平成27年6月25日

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどが信託財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に係る再委託手数料であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

また、デリバティブ取引についても行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（注2）を参照ください）。

第42期(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	17,588,077	17,588,077	-
(2) 未収委託者報酬	2,410,896	2,410,896	-
(3) 未収運用受託報酬	895,204	895,204	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	5,330,234	5,330,234	-
資産計	26,224,413	26,224,413	-
(1) 未払手数料	1,109,332	1,109,332	-
(2) 未払費用(*1)	752,915	752,915	-
負債計	1,862,248	1,862,248	-

(\*1) 金融商品に該当するものを表示しております。

第43期(平成27年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	19,107,074	19,107,074	-
(2) 未収委託者報酬	3,278,499	3,278,499	-
(3) 未収運用受託報酬	1,001,357	1,001,357	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	5,247,212	5,247,212	-
資産計	28,634,143	28,634,143	-
(1) 未払手数料	1,519,563	1,519,563	-
(2) 未払費用(*1)	926,569	926,569	-
負債計	2,446,132	2,446,132	-

(\*1) 金融商品に該当するものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

**資産**

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

**負債**

(1) 未払手数料、及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	第42期(平成26年3月31日)	第43期(平成27年3月31日)
(1) その他有価証券 非上場株式	51,135	51,135
(2) 子会社株式 非上場株式	1,169,774	1,169,774
(3) 長期差入保証金	511,366	510,636

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については

## 2. (4) 投資有価証券には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

第42期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	17,588,077	-	-	-
未収委託者報酬	2,410,896	-	-	-
未収運用受託報酬	895,204	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	1,141,800	1,960,844	1,113,993	-
合計	22,035,978	1,960,844	1,113,993	-

第43期（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	19,107,074	-	-	-
未収委託者報酬	3,278,499	-	-	-
未収運用受託報酬	1,001,357	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期のあるもの	428,800	2,113,200	149,744	-
合計	23,815,730	2,113,200	149,744	-

(有価証券関係)

## 1. 子会社株式

第42期（平成26年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第43期（平成27年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

第42期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの その他 証券投資信託の受益証券	3,171,477	3,105,800	65,677
小計	3,171,477	3,105,800	65,677
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの その他 証券投資信託の受益証券	2,158,757	2,219,774	61,017
小計	2,158,757	2,219,774	61,017
合計	5,330,234	5,325,574	4,660

(注) 非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第43期（平成27年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
その他			
証券投資信託の受益証券	3,086,552	2,925,460	161,092
小計	3,086,552	2,925,460	161,092
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
その他			
証券投資信託の受益証券	2,160,660	2,210,000	49,340
小計	2,160,660	2,210,000	49,340
合計	5,247,212	5,135,460	111,752

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

第42期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	2,506,861	68,331	23,470

第43期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	2,494,198	71,459	764

## （退職給付関係）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

（1）簡便法を採用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：千円）

	第42期 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）	第43期 （自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）
退職給付引当金の期首残高	1,268,146	1,391,001
退職給付費用	162,502	162,604
退職給付の支払額	76,988	122,316
その他	37,340	27,955
退職給付引当金の期末残高	1,391,001	1,459,244

（注）その他は、転籍者の退職給付引当金受入れ額であります。

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

（単位：千円）

	第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	1,391,001	1,459,244
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,391,001	1,459,244
退職給付引当金	1,391,001	1,459,244
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,391,001	1,459,244

## (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 第42期 162,502千円 第43期 162,604千円

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、第42期は59,733千円、第43期は62,870千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
(1) 流動資産		
繰延税金資産		
未払事業税	89,569	107,110
賞与引当金	339,980	404,117
社会保険料	33,038	33,528
未払事業所税	4,961	4,550
その他	22,690	19,871
繰延税金資産合計	490,240	569,179
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	-	9,532
繰延税金負債合計	-	9,532
繰延税金資産の純額	490,240	559,646
(2) 固定資産		
繰延税金資産		
退職給付引当金	495,196	471,999
投資有価証券	2,469	2,243
ゴルフ会員権	32,333	11,618
役員退職慰労引当金	41,449	48,561
その他	76,831	67,362
繰延税金資産小計	648,280	601,785
評価性引当額	34,803	13,861
繰延税金資産合計	613,477	587,924
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,659	26,826
繰延税金負債合計	1,659	26,826

繰延税金資産の純額	611,818	561,097
-----------	---------	---------

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第42期 (平成26年3月31日)	第43期 (平成27年3月31日)
法定実効税率	-	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.56%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.02%
住民税均等割等	-	0.06%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	1.22%
過年度法人税等	-	0.20%
特定外国子会社等留保課税	-	0.46%
その他	-	0.08%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	38.16%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法定実効税率が引き下げられることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.10%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.34%となります。

その結果、繰延税金資産の金額が97,507千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が100,931千円、その他有価証券評価差額金が3,424千円、それぞれ増加しております。

## (セグメント情報等)

## セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第42期(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	27,766,163	3,557,574	69,161	31,392,899

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

第43期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	30,077,141	3,613,731	54,133	33,745,007

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

（関連当事者との取引）

第42期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有割合	関連当事 者 との関係	取引の内 容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	大和証 券株式 会社	東京 都 千代 田区	1,000	証券業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	5,613,672	未払 手数料	488,758



その他の関係会社の子会社	株式会社 三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	3,142,899	未払手数料	277,360
--------------	----------------	---------	--------	-----	---	-------------------	---------------------	-----------	-------	---------

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

第43期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金(億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	5,383,745	未払手数料	555,261
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	2,695,822	未払手数料	344,291

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

## (1株当たり情報)

	第42期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第43期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	6,118円59銭	6,297円34銭
1株当たり当期純利益金額	913円84銭	1,072円95銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第42期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第43期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
当期純利益(千円)	3,518,293	4,130,849
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	3,518,293	4,130,849
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

#### 4 利害関係人との取引制限

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5 その他

- (1) 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項  
当社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

- (2) 訴訟事件その他重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えると予想される訴訟事件等は発生していません。

委託会社の営業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとし、営業年度末に決算を行います。

[前へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年10月16日

大和住銀投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 飯田 浩司 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている短期N Zドル債オープン（毎月分配型）の平成27年3月10日から平成27年9月7日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、短期N Zドル債オープン（毎月分配型）の平成27年9月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年10月16日

大和住銀投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 飯田 浩司 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている短期N Zドル債オープン（資産成長型）の平成27年3月10日から平成27年9月7日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、短期N Zドル債オープン（資産成長型）の平成27年9月7日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年 6月12日

大和住銀投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩 司 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 久野 佳 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第43期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[前へ](#)